

わくわく えがわく あそび

2025年8月20日
第22号

<発行>
社会福祉法人
名古屋キリスト教社会館
発行責任者 小原貴史

東部地域療育センターぽけっと
〒464-0032
名古屋市千種区猫洞通1-15
TEL 052-782-3388

発達センターちよだ
〒463-0053
名古屋市守山区小幡千代田24-17
TEL 052-792-7277

ぽけっと 父子のつどい



おとうさん、いっぱいあそぼうね！



ちよだ かぞく登園日



お父さんも、ともにげんきに子育てを！

お父さん、
いっしょにあそぼう！

東部地域療育センターぽけっと（以下ぽけっと）の通園部には千種区、名東区、守山区から四四名の子どもたちが通っています。年間を通して、お父さんも保育や行事に参加していただくことを大切にしています。

子育ての過程にお父さんが関わることは、今の時代珍しくないことです。けれども、お父さんへのかかわりに特別なケアや支えが必要な場合、まだお母さん中心の子育てになっている現状があると感じています。私たち職員は、お父さんが気軽に参加できる機会をつくり、一緒にお子さんと関わりながら、通っているときの様子やかわいいところを一つでもたくさんお伝えすることを大切にしています。

「家族の行事から再びお父さんたちの行事へ」

お父さんの参加を目的に春と秋に行ってきた「父子（ちちこ）・かぞくのつどい」では、ぽけっとでの様子を見てもらうだけでなく、パン作りや乗馬、発達講座など様々な内容にとりくんできましたが、新型コロナウイルス感染症への対応の中、交流が難しくなりました。しかし現地集合に切り替え、密にならない工夫をすることで海水浴やスキー場でのそりあそびなど、家族みんなが参加してもらおう行事づくりは継続してとりにくんできました。

そういった時期を過ぎて、改めて行事の在り方を見直す中で、今年度は久しぶりに「お父さん」に参加を呼び掛けて行事を計画しました。いっしょにあそんでいる子どもたちの様子から、お父さんと一緒にあそぶてうれい子どもたちの気持ちがたく

さん伝わりました。

子どもたちとあそぶだけでなく、一緒にお昼ご飯を食べながらの交流タイムや園庭整備にも参加していただきました。お父さん同士が自己紹介しながらペンキを塗る様子はとても嬉しいものでした。夜は職員も交えて、地域の居酒屋でお父さん交流会を実施。お父さんたちのお子さんへの思いを伝えていただき、また次の交流の機会を楽しみにする声をいただきました。

「子どもを真ん中に」

子どもが生まれた日から始まる子育ての日々は、予想できないことがたくさんあります。あふれる情報の中で手探りしながら我が子の成長を願い、一日一日が緊張や初めての連続に疲れてしまうこともあります。どんな障害があっても、子どもにとって大切にしたいことは変わることがなく、よりよいねいな子育てが求められます。お父さんの出番を大切にしつつ、お母さんだけ、家族だけの子育てにならないよう、地域の中で子どもを真ん中につながらいながら子どもたちの成長を応援していきたいです。

（ぽけっと通園部園長 福武 馨）

お父さんとあそび、楽しむ行事を開催しました。

色みずあそび、たのしかったですよ！

ぽけっとでは六月五日に「父子のつどい」を開催しました。今年はお父さんからだを使ってあそべることで、子どもにも変化が分かかって楽しめるもの、ということを考え、外部講師をお招きし、ホール一面に大きな和紙を敷いて塗り絵をしました。うさぎぐみは五家庭が参加、和紙



を床に敷きみんなで輪になって行いました。講師が見本を見せてくれると、一人ずつ配られた醤油さしを手に持って早速和紙に色水を垂らしてみても、お父さんがやってみせてくれ、和紙に色水が滲んでいく様子を見る子どもたちの姿がありました。赤・黄・青・白の色水があり、振ると色水が出るものやスポンジでスタンプするもの、ポンプ式で押したら出るものなどいろいろな道具がありました。子どもたちも色や道具を自分で選ぶ楽しさがあり「アカ！」と嬉しそうに選ぶ子もいました。自分で選んであそぶ様子を温かく見守り、初めは少し緊張しているように感じたお父さんも子どもがやっている姿を見て、一緒に色水を垂らしてあそび、少しずつ緊張もほぐれてきているように感じました。あそびこんでいくうちに次は「どれにする？」とお父さんが子どもに聞いたり、いろいろな道具や色があることで道具によって違う変化と一緒に楽しむ様子がありました。手足に色をつけて手形をつけるのも楽しく、手形をつけるとお父さんの方を見て「できたよ」と嬉しそうに伝える姿もあり、お父さんに伝えたいくらいあそびが楽しいことが伝わり、嬉しく思いました。日頃はお父さんに直接、通園での様子を伝える機会がないので「モット」とあそんでいる姿をお父さんと共有できて良かったなと思います。他の親子の様子も見え、子どもたちの姿をみんなで見守りながら和やかな雰囲気の中でお父さんたちに塗り絵を体験してもらえてよかったです。思いです。（裏面に続く）



午後からはお父さんプログラムとして、ぼけつとのテラスとフェンスのペンキ塗りをしました。お父さん同士子どもの話やたわいもない話をしながら作業し、普段あまりしないペンキ塗りをしながら交流ができました。

お父さんに園での子どもの姿を直接伝えられる機会や、お父さん同士の交流を今後もやっていけるといいなと思います。

最後に参加していただいたお父さんの感想を紹介します。

『自分のあそび方を見つけ、楽しくアートをできていたと思います。日頃、あそんでいるつもりではありますが、もっと息子との時間をつくらないといけないと感じました。また、先生たちのたくさんのサポートがあり成長していると改めて実感しています。(三歳児)』

『色々な色の水をまき散らして、楽しく走り回っていました。パパも楽しく、夢中で足跡を残そうとしましたが、すぐに足で色水を踏まないと形が残らず不思議でした。皆が描いた色が混ざり合い立派な作品になったのが感慨深かったです。貴重な体験ありがとうございました。(四歳児)』

『三年間ぼけつとのイベントに参加してきましたが、今回以上にお父さん方と話をしたことはなく、初めてのことでした。私は、三年間、話をするのにかかってしまいました。今回のようなプログラムは今後も継続してほしい！話をしながら、ぼけつとでペンキを塗るのは、すごく楽しかったです。(五歳児)』

(ぼけつと保育士 鈴木愛梨)

初めてお父さんちよだであそびたいよ！

発達センターちよだ(以下ちよだ)では、お父さんの参加プログラムを毎年企画しています。「かぞく登園日(父子のつどい)」は、①我が子と一緒に過ごす中で楽しいあそびを知る②ちよだでの我が子の様子を知る③お父さん同士の交流を図るなどの目的で行っています。

今年度は六月一日に開催しました。平日にもかかわらず、たくさんのお父さんが参加してくださいました。あいにく雨でしたが、お父さんも一緒にリズム運動で汗を流し、とりくみでたっぷりあそび、給食を楽しみました。いつもと違う雰囲気にも子どもたちも最初はドキドキしていましたが、徐々に慣れて楽しく過ごしていました。

新入児のたんぼ組は、親子登園で、お母さんと楽しんだあそびをお父さんにも知ってもらいたいと思い、米粉粘土を行いました。粉のさらさらした感覚を味わった後は、水を混ぜて少しずつ粘土に変化していく過程を楽しみました。最後はヘラや型抜きなどを使ったの粘土あそび。食べ物や生き物などが我が子の好きなもの、興味のあるものを一生懸命作って見せるお父さんたちの姿が印象的でした。

めだか組は、初めてお父さんと一緒に行事に子どもたちも嬉しい様子。土粘土でお父さん自身の好きなものを作ってもらい、プチ交流会もしながらあそびました。ちよだちよ組は、片栗粉を降らせたり、水溶性片栗粉のタライに入ったりとダイナミックにあそびました。お父さん子どももみんな楽しんで全身粉まみれになって楽しみました。つばめ組は香流プールへ出かけました。

初めて親子プールに参加するお父さんも半数くらいいて、最初



はちよつぱりドキドキでしたが、プール大好きな子どもたちとのふれあいを思いっきり楽しみました。

ちよだに来る機会があまりないお父さんたちにも、子どもたちが普段楽しんでるあそびや生活の姿、保育者やお友だちとの関わりなどを知っていただけたかと思えます。もしかしたら、おうちで見ているのとは違う子どもの姿に、新しい発見もあったかもしれません。

午後は、全クラス合同で二年ぶりにお父さん同士の交流会を行いました。最初は緊張した様子もありましたが、年長のお父さんが中心となり話を盛り上げてくださいました。いつも寝かしつけはどうしてる？休日に子どもと何をしてあそんでる？などいろいろな話をして、あつという間の一時間でした。

親子登園や送迎、行事への参加など、年々お父さんの参加が増えてきている印象を受けます。親子での関わりを見ていると、子どもたちもお父さんのことが大好きな様子が伝わってきます。

これからは、お父さんと子どもの関係を支えていけるよう、日々のコミュニケーションや行事での関わりを大切にしていきたいと思えます。

ちよだでは八月三十日に夏まつりが行われます。お父さんたちも力を合わせてお店を出す予定ですので、お父さんたちの活躍を楽しみにしています。

(ちよだ保育士 加藤 愛)



わくわくフェスタ、今年も開催！

今年も五月一七日(土)にぼけつとを会場にわくわくフェスタを開催しました。「地域の子どもたちに楽しいあそびの文化を伝えよう！」とぼけつと開所当時より、ぼけつと・ちよだ合同で開催してきました。ぼけつとが十周年を迎え、スタンプラリーをしながらぼけつとの歴史を振り返られるようにと趣向を凝らしました。しかし、当日の朝は夜から降り続いたドシヤ降り

急遽室内開催へ変更の準備に追われることになりました。スタンプラリーは、また来年度に向けて仕切直しをしようと思えます。

当日は足元が悪い中でも沢山の来場者が遊びに来てくださいました。オープニングはぼけつととちよだの職員によるリズムあそび。沢山の子どもたちがリズムに合わせて体を動かしました。ステージが温まったところで、フラダンスのショーと参加者にもレクチャーをして一緒にフラダンスを楽しみました。そしてフィナーレには障害児への音楽療法リトミックに興味を持ち、福祉活動も行っている知花時野さんと、みやくエイサーさんの迫力ある演舞でステージは盛り上がりました。



メイン企画は、アコーディオンとウクレレの生演奏でおくる人形芝居燕組さんをお招きしました。信州松本を拠点にくすのき燕さん演出によるひとり人形芝居の上演のほか、演出・ワークショップなどを行っています。人形劇は視覚的にハッとさせられる場面もあり、子どもたちも集中して観劇し、楽しそうにしていました。

体験コーナーでは、積木のとよちゃんによる二万個の積木を使ったワークショップでは参加された親子それぞれが作品を一つとして表現し、参加された親子には大好評でした。他には、木工キットを使ってミニベンチやトイレットペーパーの芯を使った帽子作りなどのクラフト、スライム作り、ヴァイオリンリスト高由美さんに

よるヴァイオリン体験も皆さんに楽しんでいただけました。あそびコーナーでは、伝承遊び、ブンブンゴマ作り、名古屋大学サークルゆどうふさんによるシャボン玉体験では、雨模様の中もすっきりと晴れてキラキラ光るシャボン玉で楽しく遊べてキラキラ光る子どもたちの笑顔で一杯になりました。

食べ物コーナーでは、おにぎりや手づくりパンの販売、揚げパンなど好評でした。キッチンカーや名古屋キリスト教社会館後援会からもみたらしの販売がされました。ののかぜ保育園さんからもバザーの出店があり、掘り出し物を見つけたらと喜びの声も寄せられました。

「見て！聞いて！遊んで！」という開所以来変わらないモットーを大切に今後も地域の皆様子どもたち、利用者皆様を通じて本物の体験を届ける機会作りになれるように上げていきたいと思えます。

(ぼけつと看護師 野崎邦子)



おすすめ絵本

「おかあさんのパンツ」
作・絵：山岡ひかる (絵本館)

子どもたちに大ヒットの私が大好きな絵本「おかあさんのパンツ」を紹介します。



岐阜市の「大きな木」という本屋さんに行った時に、店主の杉山三四郎さんにお勧めされた絵本の中の一冊です。身近なもの(たんぼぼ、さかななど)のイラストのパンツをお母さんが履いたらナント!!さくらんぼがリンゴになったり、たんぼぼのパンツをお母さんが履くと花火になったりします。

曲がついてリズム感があってテンポよくノリのよい音楽を聴きながら、どれも親子で楽しめます。九月に行われる法人内の四センター合同行事でも三四郎さんが弾き語りをしてください。ぜひ、手にとって読んでみてください。

鈴木 佳美 (ぼけつと保育士)